

ID ^{注1)}	231103	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	221103
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	----	---------------------	--	------	--------

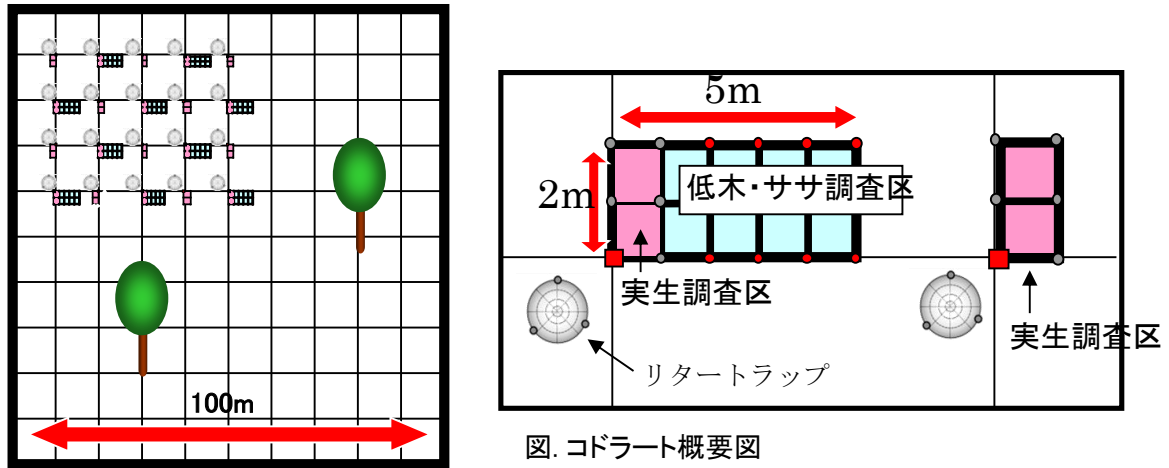
報告書名称 /調査名称	令和4年度 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査		発行年月/報告年月					
			2023年	10月				
			資料形式 ^{注2)}	—				
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所		委託機関					
調査開始年	1999年	6月	調査期間	2021年	6月	～	2022年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋				
モニタリング計画	2022年7月	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
☒ 核心地域 ☐ 緩衝地域 ☐ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり				☐ 調査項目 ブナ林動態調査 ☐ 調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマガラサイト、尾根サイト） ☐ 調査面積 サイト毎に100m×100m ☐ 調査手法 種子・リター調査以外は年1回実施、種子・リター調査は6月にリタートラップを設置し7～11月リター回収、11月リタートラップ撤収。 ※平成27年度に関しては道路状況・天候不順の影響でリタートラップの設置を9月に行い、10月～11月にリターの回収を実施した。それ以外の調査項目に関しては例年通りに実施 <成木>・・・胸高直径 5cm 以上の樹木を対象 胸高直径、位置 <低木>・・・樹高 50cm 以上、2m×5m 枠×10 個/サイト 樹高、地際直径 <ササ>・・・2m×5m 枠×10 個/サイト 稈長、地際直径（新規のみ）生死、群落高 <実生>・・・高さ 50cm 未満、1m×1m 枠×40 個/サイト 樹種、生死、高さ <種子・リター>・・・0.5 m ² のリタートラップ×20 個/サイト 1 か月ごとに回収、仕分け 種子数（状態：未熟、虫食い、しいな、健全）、リター量 <光条件>・・・全天写真 実生枠（1m×2m）につき一地点、地表、ササの上（2m）				
※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。								
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<ブナ林> 3サイトとも典型的な日本海側のブナ林の特徴を示していた。クマガラサイトの半分は地すべり跡地にあり、胸高直径最大約60cm でサイズのそろったブナが多く、一斉に成立したことを示唆する。尾根サイトでは、最大 120cm にもおよぶ大径のブナがある一方、過去の倒木によって林冠ギャップとなった部分も多いため、小径の樹木密度が非常に高い分布となっている。ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造といえる。2018年は台風21号の影響でマザーツリーが折れるなど、被害は他年に比べると大きかったと思われるが、プロット内では明確な影響は見られなかった。 <低木ササ> いずれの調査区でも、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバといった低木性樹種が大部分を占めている。低木ではどのサイトでも、2006 年から増加傾向を示している。ササについては尾根サイトで2006 年から増加傾向を示している。これは、2004年および 2005 年にこの地方を通過した台風により、林冠木が倒れ、林冠ギャップが形成されたことと対応している。（図なし） <ブナ種子> ブナの種子生産は 2000 年と2018年が多く、特に2000年の櫛石尾根では 1 m²あたり 500個を超える種子が落下した。2020年は豊作、2021年は、不作となったが、2022年は、健全な種子が尾根サイト152個/m²、クマガラサイト158個/m²、ヤナダキサイト141個/m²であり豊作となった。2022年はサイトへのアクセス道が通行止めになり、9月10月のリター回収が行えなかったため、データ解析は11月のリター回収の結果を用いた。 <実生> 各サイトともブナの豊作年の翌 2001年に密度が最大となったが、大量に加入したブナ実生も、1～2年でほとんどが消失し実生密度の増加はごく一時的なものにとどまった。2014年は2013年に健全種子が落下したため、当年生のブナ実生が3サイト平均 0.87個/m²に増加した。2022年は、サイトへのアクセス道が通行止めになったため実生の調査は中止した。								
世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局長 石橋史朗 office@monitoring.sakura.ne.jp				※原本（データ）の帰属について※				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

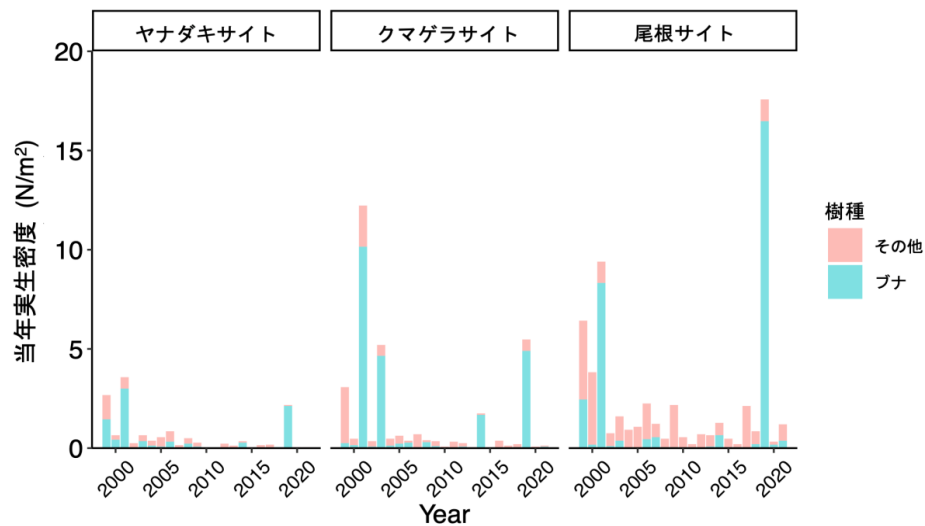
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考



当年生実生数の推



ブナ種子落下数の推移

